

アニメ映画『パンダコパンダ』論

藤 森 猛

摘要

1972年、宮崎駿、高畑勲、小田部羊一和大冢康生四个人做了一部动画片《熊猫家族》。这部动画片在日本都广受欢迎，同时该片是吉卜力工作室以及新日本美术片的出发点。

本论首先说明从1950年代到1960年代的日本儿童文学的影响，其次分析欧美儿童文学的影响，最后考察中国儿童文学的影响。是因为所有的宫崎作品里、高畑作品里，都有日本儿童文学、欧美儿童文学和中国文学的影响。

1972年是中日邦交正常化之年，也是中国政府首次赠送大熊猫的年份，同时宫崎和高畑两个动漫片大师第一次一起制作美术片的纪念年。

关键词：中国动画片，动漫片，美术片，熊猫家族，大熊猫，宫崎駿，高畑勲，小田部羊一，大冢康生，吉卜力工作室

はじめに

宮崎駿，高畑勲，小田部羊一らによる1972年アニメ『パンダコパンダ』および1973年『パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻』は，宮崎・高畑らの出発点となったアニメーション映画作品であり，同時にスタジオジブリの映画スタンスを決定づけた作品であるといわれる。

本論においては，まず宮崎作品・高畑作品において物語の土台となった1950～1960年代の日本の児童文学について概括し，次に宮崎作品のキャラクター形成に影響を与えたヨーロッパ児童文学の影響をまとめる。最後に『パンダコパンダ』の制作に直接的な影響を与えた中国児童文学・中国アニメ映画と日中交流について考察していきたい。

一 アニメ制作のルーツ・日本児童文学

(1) 『パンダコパンダ』制作の原点

アニメ映画『パンダコパンダ』は、高畑勲（1935年生まれ）、宮崎駿（1941年生まれ）、小田部羊一（1936年生まれ）の戦中生まれの3人のアニメーターによって制作された¹⁾。『パンダコパンダ』の制作にあたって、例えば、高畑は「私たちの野心・思いとは、一口で言えば、子どもの心をパーと解放する映画を作りたい」と述べている²⁾。また宮崎は「ささやかなこと、普段の生活の中にこそ楽しいことやうきうきすることがあるのではないかと考え、子どもが本当に喜んでくれるものを作ろうとしたのが、この『パンダコパンダ』だったのです。」と述べている³⁾。

(2) 戦後日本における児童文学の普及

表1～4は、1950年代に日本で出版された主な児童文学一覧である。戦後日本における児童文学は、1950～1960年代に黄金期を迎え、児童文学は欧米児童文学に学んで、子どもの心を解放する作品をめざしたといわれる⁴⁾。戦後の児童文学は、1950年2月の「少年少女の読物百種委員会」の発足に始まる⁵⁾。また1950年末に、上記メンバーでもあった吉野源三郎、石井桃子、吉田甲子太郎らによって、岩波少年文庫が創刊され、1950年末から3年半の間だけでも76冊が刊行され、外国の児童文学が花開いた⁶⁾。1950年代から少年期・青年期を迎えた高畑、宮崎、小田部にとって、アニメ作品制作のルーツは、戦後の児童文学にあったといわれる。

宮崎駿は大学時代に「児童文学研究会」に入り、「サークルのおかげで児童書をずいぶん読むようになった」と述べ、また「僕は、ビートルズの時代にビートルズを全然聴いていないんです。部屋にラジオを置くこともしませんでした。テレビはもちろんのこと、何もないんです。児童文学は、そういう流行とは関係のない隅っこのところにあるということでしょうね。」と述べている。特に1956年に刊行された吉野源三郎の児童文学『君たちはどう生きるか』は、宮崎駿アニメ作品『君たちはどう生きるか』（2023年）の同名タイトルとなり、宮崎アニメ作品に最も大きな影響を与えた児童文学といわれる⁷⁾。上記「少年少女の読物百種委員会」のメンバーで岩波少年文庫などを創刊した吉野は、『エイブ・リンカーン』などの児童文学者であり、オランダのドラ・ド・ヨング『あらしの前、あらしのあと』などの翻訳者であり、戦中・戦後を代表する児童文学研究者であるといわれる⁸⁾。宮崎作品には一貫して、吉野源三郎の作品が生きていて考えられる。

表1 戦後日本の主な児童文学(1) (1950～52年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊 (○印)
あしながおじさん	ウェブスター	アメリカ	1950年	
クリスマス・キャロル	ディケンズ	イギリス	1950年	
ふたりのロッテ	ケストナー	ドイツ	1950年	
ロビンソン漂流記	ダニエル・デフォー	イギリス	1950年	○
小さい牛追い	M・ハムズン	ノルウェー	1950年	○
宝島	スチブンソン	イギリス	1950年	○
オズの魔法使い	フランク・バウム	アメリカ	1951年	
ノンちゃん雲に乗る	石井桃子	日本	1951年	
ミツバチ・マアヤの冒険	ワルデマル・ポンゼルス	ドイツ	1951年	
三銃士	A・デューマ	フランス	1951年	○
青い鳥	メーテルリンク	ベルギー	1951年	
ガリヴァー旅行記	スウィフト	アイルランド	1951年	
ドリトル先生アフリカゆき	ロフティング	イギリス	1951年	
ロビン・フッドの愉快な冒険	パワー・パイル	アメリカ	1951年	
グリム童話選	ヤーコブ・グリム, ヴィルヘルム・グリム	ドイツ	1951年	
私たちの友だち	バイコフ	ロシア	1951年	
りこうすぎた王子	A・ラング	イギリス	1951年	
夢を追う子	ハドソン	アルゼンチン	1951年	
クルミわりとネズミの王様	ホフマン	ドイツ	1951年	
名犬ラッド	ターヒューン	アメリカ	1951年	
ハンス・プリンカー 銀のスケート	M・M・ドッジ	アメリカ	1952年	○
バラとゆびわ	サッカレイ	イギリス	1952年	○
バンビ 森の生活の物語	F・ザルテン	オーストリア	1952年	
モヒカン族の最後	クーパー	アメリカ	1952年	
家なき子	エクトル・マロ	フランス	1952年	
光ほのかに アンネ・フランクの日記	アンネ・フランク	オランダ	1952年	
水の子陸の子のための おとぎばなし	キングスレイ	イギリス	1952年	
赤毛のアン	モンゴメリ	カナダ	1952年	
長い長いお医者さんの話	K・チャベック	チェコ	1952年	○
二十四の瞳	壺井栄	日本	1952年	

ハイジ	ヨハンナ・スピリ	スイス	1952年	
ロビンソン・クルーソー	デフォー	イギリス	1952年	
メギー 新しい国へ	ヴァイニング	アメリカ	1952年	
カッパのクー	オケリー	アイルランド	1952年	
ふしぎなオルガン	レアンダー	ドイツ	1952年	
サル王子の冒険	デ・ラ・メア	イギリス	1952年	

(出所) 佐藤宗子・久米依子編『現代日本子ども読書史図鑑』終風社、2023年、岩波晃子『岩波少年文庫のあゆみ』岩波書店、2021年、松岡享子『子どもと本』岩波書店、2015年および宮崎駿『本へのとびら』岩波書店、2011年を参照して作成。

- (注) 1) 表中の作者「出身国」は作者の国籍ではなく、出生した国名で表記。なお、国名は出版時の国名ではなく、現在の国名で表記した。
 2) 「出版」は初出版の年ではなく、戦後日本における『岩波少年文庫』などの児童文学書としての出版年を指す。
 3) 表中右欄の「宮崎駿・選50冊」は宮崎駿が選んだ「岩波少年文庫の50冊」：宮崎駿『本へのとびら』(岩波書店、2011年)に含まれる児童文学を指す。

表2 戦後日本の主な児童文学(2) (1953～54年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊 (○印)
にんじん	ルナール	フランス	1953年	
エミールと探偵たち	ケストナー	ドイツ	1953年	
クオレ (愛の学校)	デ・アミーチス	イタリア	1953年	
黒馬物語	シュウエル	イギリス	1953年	
ジェーンアダムスの生涯	ジャッドソン	アメリカ	1953年	○
スザンナのお人形・ ピロードうさぎ	ビアンコ	イギリス	1953年	
とぶ船	H・リュイス	イギリス	1953年	○
ネギをうえた人 朝鮮民話選	金素雲	韓国	1953年	○
ファーブルの昆虫記	ファーブル	フランス	1953年	○
仔鹿物語	ローリングズ	アメリカ	1953年	
森は生きている 十二月	マルシャーク	ロシア	1953年	○
星のひとみ	トベリウス	フィンランド	1953年	
ニールスのふしぎな旅	ラーゲルレーヴ	スウェーデン	1953年	
ウサギどん キツネどん	J・C・ハリス	アメリカ	1953年	
ニーベルンゲンの宝	G・シャルク	ドイツ	1953年	○
星の王子さま プチ・フランス	サン＝テグジュペリ	フランス	1953年	○
ツイーゼルちゃん	ベルゲンリューン	ラトビア	1953年	

アニメ映画『パンダコパンダ』論

埋もれた世界	A・T・ホワイト	アメリカ	1953年	
ジェーン・アダムスの生涯	ジャッドソン	アメリカ	1953年	
ジャン・ヴァルジャン物語 (レ・ミゼラブル)	ユーゴー	フランス	1953年	
アラビアン・ナイト			1954年	
おかあさんの たんじょう日	フラック	アメリカ	1954年	
こねこのびっち	フィッシャー	スイス	1954年	
シートンの動物記	シートン	アメリカ	1954年	
どうぶつ会議	ケストナー	ドイツ	1954年	
トム・ソーヤの冒険	マーク・トウェイン	アメリカ	1954年	○
はなのすきなうし	リーフ	アメリカ	1954年	
ひとまねこざる	H・A・レイ	ドイツ	1954年	
百まいのきもの	エスティーズ	アメリカ	1954年	
九月姫とウグイス	モーム	イギリス	1954年	
小公子	バーネット	イギリス	1954年	○
風にのってきた メアリー・ポピンズ	トラヴァース	イギリス	1954年	
ちいさいおうち	パートン	アメリカ	1954年	
ピーター・パン	J・M・バリ	イギリス	1954年	
こぐま星座	ムサトフ	ロシア	1954年	

(出所) 表1に同じ。

表3 戦後日本の主な児童文学(3) (1955～57年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・ 選50冊 (○印)
ジャングル・ブック オオカミ少年モーグリ	キプリング	イギリス	1955年	
長い冬	ローラ・インガルス・ワ イルダー	アメリカ	1955年	○
ふしぎの国のアリス	ルイス・キャロル	イギリス	1955年	○
西遊記	呉承恩	中国	1955年	○
イワンのばか	トルストイ	ロシア	1955年	○
シャーロック・ホームズの冒険	コナン・ドイル	イギリス	1955年	○
ききみみずきん	木下順二	日本	1956年	
君たちはどう生きるか	吉野源三郎	日本	1956年	
クマのプーさん	A・A・ミルン	イギリス	1956年	○

ぞういさんばーる	ブリュノフ	フランス	1956年	
チポリーノの冒険	ジャンニ・ロダーリ	イタリア	1956年	○
まりーちゃんとひつじ	フランソワーズ	フランス	1956年	
海底二万里	ジュール・ヴェルヌ	フランス	1956年	○
床下の小人たち	M・ノートン	イギリス	1956年	○
シチリアの少年	ルイジ・カプアーナー	イタリア	1956年	
錦の中の仙女		中国	1956年	
ジャータカ物語		インド	1956年	
アンナプルナ登頂	モーリス・エルゾーグ	フランス	1957年	
オタバリの少年探偵たち	セシル・デイ・ルイス	イギリス	1957年	○
ガンジー伝 剣なき戦士	J・イートン	アメリカ	1957年	
ながいながいペンギンの話	いぬいとみこ	日本	1957年	
バレエ・シューズ	ストリートフィールド	イギリス	1957年	
フランダースの犬	ウィーダ	イギリス	1957年	
名探偵カッレくん	リンドグレーン	スウェーデン	1957年	
日本童謡集	与田準一	日本	1957年	
せむしの子馬	エルショーフ	ロシア	1957年	○
アーサー王物語	R・L・グリーン	イギリス	1957年	

(出所) 表1に同じ。

表4 戦後日本の主な児童文学(4) (1958～59年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊 (○印)
エイブ・リンカーン	吉野源三郎	日本	1958年	
ほんとうの空色	バラージュ	ハンガリー	1958年	
みどりいろの童話集	アンドルー・ラング	イギリス	1958年	
奇巖城	ルブラン	フランス	1958年	
四人の姉妹	オールコット	アメリカ	1958年	
太陽の東 月の西	アスビョルセン, ヨルゲン・モオ	ノルウェー	1958年	
日本民話選	木下順二	日本	1958年	
秘密の花園	バーネット	イギリス	1958年	○
ピノッキオの冒険	コッローディ	イタリア	1958年	
白いタカ	E・アーノルド	アメリカ	1958年	
風の王子たち	ミッシェル・エーメ・ ボードゥイ	フランス	1958年	○

おしゃべりなたまごやき	寺村輝夫	日本	1959年	
かにむかし	木下順二	日本	1959年	
きかんしゃやえもん	阿川弘之	日本	1959年	
谷間の底から	柴田道子	日本	1959年	
だれも知らない小さな国	佐藤暁	日本	1959年	
名犬ラッシー	エリック・ナイト	アメリカ	1959年	
木かげの家の小人たち	いぬいとみこ	日本	1959年	
水滸伝	施耐庵	中国	1959年	
ムギと王さま	E・ファージョン	イギリス	1959年	○

(出所) 表1に同じ。

表5 吉野源三郎 児童文学『君たちはどう生きるか』ストーリー紹介

中学生の主人公はおじさんから、コペルニクスにちなんで、「コペル君」とよばれている。コペル君の感じたことが、「人間の結びつき」「偉大な人間とは」といったおじさんの視点でノートに意味づけられていく。クライマックスは上級生から暴力を受けた友だちをみすててしまった自分を責め、やがて、勇気を出して友だちとの関係を回復していくコペル君。

(出所) 奥山恵「君たちはどう生きるべきか」：佐藤宗子・久米依子編『現代日本子ども読書史図鑑』柊風社、2023年、78ページを要約。

(注) 表は吉野源三郎の児童文学作品「君たちはどう生きるか」：『新編・日本少国民文庫6』1956年（1937年に書き下ろされた作品の再録）の概要であって、宮崎駿のアニメ映画『君たちはどう生きるか』（2023年）の作品概要ではない。

二 アニメキャラクターのルーツ・ヨーロッパ児童文学

(1) ヨーロッパ児童文学の全盛とアニメ制作

表6～表11は1960年代におけるわが国の児童文学の発刊状況である。1950年の創刊から11年で193冊を刊行した「岩波少年文庫」は日本における児童文学をリードしてきたが、60年代に休刊となった⁹⁾。これに代わって、岩波「少年少女文学全集」や各出版社による作家別の単行本が次々と発刊され、イギリス・ドイツ・フランス・スイスの児童文学、デンマーク・フィンランド・スウェーデン・ノルウェーの児童文学、アメリカ児童文学が活況を呈した¹⁰⁾。

宮崎駿、高畑勲、小田部羊一に代表されるスタジオジブリのアニメ映画は、「明るく、元気よく、はきはきとした」少女キャラクターを主人公として登場させることが多いが、それは1950～60年代の日本におけるヨーロッパの児童文学の流行にあるといわれる。

(2) 宮崎作品におけるヨーロッパ児童文学

1971年、高畑勲・宮崎駿・小田部羊一は東映動画を退社し、Aプロダクションに移籍し、スウェーデンのリンドグレン作品のアニメ制作を開始した¹¹⁾。同年8月、宮崎らはアニメ『長くつ下のピッピ』の制作のため、原作者リンドグレンにアニメ制作の許諾のためにスウェーデンを訪れたが、面会できず、アニメ制作は中止となった¹²⁾。次の作品の企画として生まれたのが「パンダの登場する企画であった」¹³⁾。小田部羊一は『パンダコパンダ』の女主人公ミミ子は『長くつ下のピッピ』のために試作したキャラクターを転用したものです」と述べ、『パンダコパンダ』は『ピッピ』の替りに生まれたようなもので、今でも懐かしい思いと共にあります。」と述べている¹⁴⁾。『パンダコパンダ』の制作の裏には、ヨーロッパ文学作品のアニメ映画化を考えていた3人の共通の思いがあったのである。

また1974年には、スイスのJ・シュピーリ原作の児童文学『ハイジ』が連続テレビアニメ『アルプスの少女ハイジ』として放送され、ヨーロッパの児童文学を演出高畑勲、絵コンテ宮崎駿、作画小田部羊一のスタッフでアニメ作品に仕上げていく体制が整った¹⁵⁾。

1985年にはスタジオジブリが設立され、『パンダコパンダ』でアニメーター大塚康生が描いた「パパンダ」をモデルにしたアニメ映画『となりのトトロ』が宮崎駿によって制作され、空前のヒットを記録した¹⁶⁾。

さらに宮崎アニメの中で、ドイツ児童文学の影響も大きいと考えられる。ヤーコプ・グリム、ヴィルヘルム・グリムの『グリム童話』に始まり、オトフリート・プロイスラーの『小さい魔女』、『大どろぼうホッツェンプロッツ』などの作品の影響が見られる。特にプロイスラーの『小さい魔女』は、「おっちょこちよいでかわいらしく、同時に他の魔女のいじめにも負けず、弱い人の味方をする魔女」として描き、1985年、角野栄子の児童文学『魔女の宅急便』の主人公魔女「キキ」の原形となったと考えられる¹⁷⁾。1989年宮崎アニメの代表作『魔女の宅急便』が公開され、世界的なヒット作となった¹⁸⁾。また、かわいらしく無邪気な魔女の物語は、日本のアニメーションに「魔法少女アニメ」とよばれるジャンルを作った¹⁹⁾。なお、中国アニメにおいては1986年、胡進慶らによって、中国を代表する剪紙アニメ『ひょうたん兄弟』が制作され、おっちょこちよいでかわいい蛇の魔女が登場することになった²⁰⁾。

表6 戦後日本の主な児童文学(5) (1960～62年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊(○印)
とべたら本こ	山中恒	日本	1960年	
龍の子太郎	松谷みよ子	日本	1960年	

アニメ映画『パンダコパンダ』論

あらしの前・あらしのあと	ドラ・ド・ヨング	オランダ	1961年	
アンディとらいおん	ジェームズ・ドーハーティ	アメリカ	1961年	
いたずらきかんしゃ ちゅうちゅう	バートン	アメリカ	1961年	
おかあさん	サトウハチロー	日本	1961年	
ちびっこカムのぼうけん	神沢利子	日本	1961年	
ドリトル先生アフリカゆき	ヒュー・ロフティン	イギリス	1961年	○
ビーグル号航海記	ダーウィン	イギリス	1961年	
ぼくは王さま	寺村輝夫	日本	1961年	
夢を掘りあてた人 トロイアを発掘したシュリーマン	ヴィーゼ	ドイツ	1961年	
キューボラのある街	早船ちよ	日本	1961年	
3びきのくま	トルストイ	ロシア	1962年	
いやいやえん	中川季枝子	日本	1962年	
飛ぶ教室	エーリヒ・ケストナー	ドイツ	1962年	○
宝のひょうたん・ 陶奇の夏休み日記	張天翼, 謝冰心	中国	1962年	
キュリー夫人	ジャネット・イートン	アメリカ	1962年	○

(出所) 表1に同じ。

表7 戦後日本の主な児童文学(6) (1963～64年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・ 選50冊 (○印)
アンデルセン童話全集1	アンデルセン	デンマーク	1963年	
エルマーのぼうけん	ガネット	アメリカ	1963年	
たのしい川べ ヒキガエルの冒険	ケネス・グレアム	イギリス	1963年	○
チムとゆうかんなせんちょうさん	エドワード・アーディゾーニ	イギリス	1963年	
もりのなか	エッツ	アメリカ	1963年	
モルグ街の怪事件	アラン・ポオ	アメリカ	1963年	
三月ひなのつき	石井桃子	日本	1963年	
せいめいのれきし	バージニア・リー・パトソン	アメリカ	1964年	
ちいさいモモちゃん	松谷みよ子	日本	1964年	
ちいさなうさこちゃん	ブルーナ	オランダ	1964年	

どろんこハリー	ジーン・ジオン	アメリカ	1964年	
まぼろしの白馬	エリザベス・グージ	イギリス	1964年	○
怪人二十面相	江戸川乱歩	日本	1964年	
少年詩集 銀の触角	小林純一	日本	1964年	
わたしの幼少年時代	シュバイツァー	ドイツ	1964年	
長くつ下のピッピ	リンドグレーン	スウェーデン	1964年	
ロバータさあ歩きましょう	佐々木たづ	日本	1964年	

(出所) 表1に同じ。

表8 戦後日本の主な児童文学(7) (1965年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊 (○印)
あおい目のねこ	エコン・マチーセン	デンマーク	1965年	
かもさんおとおり	ロバート・マックロス キー	アメリカ	1965年	
クレヨン王国の12か月	福永令三	日本	1965年	
しろいうさぎとくろいうさぎ	ガース・ウィリアムズ	アメリカ	1965年	
たのしいムーミン一家	トーベ・ヤンソン	フィンランド	1965年	
チョコレート戦争	大石真	日本	1965年	
てぶくろ ウクライナ民話		ウクライナ	1965年	
プラテロとわたし	ファン・ラモン・ヒメネ ス	スペイン	1965年	
ホビットの冒険	トールキン	イギリス	1965年	○
みどりのゆび	モーリス・ドリュオン	フランス	1965年	○
ももいろのきりん	中川季枝子	日本	1965年	
やかまし村の子どもたち	リンドグレーン	スウェーデン	1965年	○
ゆかいなホームーくん	マックロスキー	アメリカ	1965年	
ラチとらいおん	マレーク・ペロニカ	ハンガリー	1965年	
三びきのやぎのがらがらどん	アスビョルセン, モー	ノルウェー	1965年	
小さい魔女	プロイスラー	ドイツ	1965年	
潮風を待つ少女	佐伯千秋	日本	1965年	
肥後の石工	今西祐行	日本	1965年	
目をさませトラゴロウ	小沢正	日本	1965年	

(出所) 表1に同じ。

表9 戦後日本の主な児童文学(8) (1966年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊 (○印)
おおきなかぶ ロシア民話	トルストイ	ロシア	1966年	
おやすみなさいフランシス	ラッセル・ホーバン	アメリカ	1966年	
かさじぞう	瀬田貞二	日本	1966年	
かばくん	岸田衿子	日本	1966年	
きつねものがたり	ヨゼフ・ラダ	チェコ	1966年	
ぐるんばのようちえん	西内ミナミ	日本	1966年	
しょうぼうじどうしゃじぶた	渡辺茂男	日本	1966年	
セロひきのゴーシュ	宮沢賢治	日本	1966年	
どうぶつのおやこ	藪内正幸	日本	1966年	
びりっかすの子ねこ	マインダート=ディヤング	アメリカ	1966年	
ライオンと魔女	C・S・ルイス	イギリス	1966年	
火のくつと風のサンダル	ウルズラ=ウェルフエル	ドイツ	1966年	
気まぐれロボット	星新一	日本	1966年	
宿題ひきうけ株式会社	古田足日	日本	1966年	
小さなスプーンおばさん	ブリョイセン	ノルウェー	1966年	
大どろぼうホッツェンプロッツ	プロイスラー	ドイツ	1966年	

(出所) 表1に同じ。

表10 戦後日本の主な児童文学(9) (1967年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊 (○印)
11ぴきのねこ	馬場のぼる	日本	1967年	
あおくんときいろちゃん	レオ・レオーニ	アメリカ	1967年	
おおかみと七ひきのこやぎ グリム童話	ヤーコプ・グリム, ヴィルヘルム・グリム	ドイツ	1967年	
きつねとねずみ	ビアンキ	ロシア	1967年	
くまのパディントン	マイケル・ボンド	イギリス	1967年	
ぐりとぐら	なかがわりえこ	日本	1967年	
スーホの白い馬	大塚勇三	日本	1967年	
モンゴル民話		モンゴル	1967年	
だいくとおにろく	松井直	日本	1967年	
だるまちゃんとてんぐちゃん	加古里子	日本	1967年	

チム・ラビットのぼうけ	アトリー	イギリス	1967年	
ツバメ号とアマゾン号	アーサー・ランサム	イギリス	1967年	○
トムは真夜中の庭で	フィリパ・ピアス	イギリス	1967年	
どんくまさん	武市八十雄, 蔵富千鶴子	日本	1967年	
はなおくんくん	ルース・クラウド	アメリカ	1967年	
ペロ出しチョンマ日本	斎藤隆介	日本	1967年	
夕ばえ作戦	光瀬龍	日本	1967年	
時をかける少女	筒井康隆	日本	1967年	
小さい勇士のものがたり	マーシェリー・シャープ	イギリス	1967年	
人形の家	ゴッデン	イギリス	1967年	
天使で大地はいっぱいだ	後藤竜二	日本	1967年	

(出所) 表1に同じ。

表11 戦後日本の児童文学(10) (1968～69年)

書名	作者	出身国	出版	宮崎駿・選50冊 (○印)
カイウスはばかだ	ウインターフェルト	ドイツ	1968年	
がんばれヘンリーくん	クリアリー	アメリカ	1968年	
太陽の戦士	サトクリフ	イギリス	1968年	
ちょんまげ手まり歌	上野瞭	日本	1968年	
てんぷらぴりぴり	まど・みちお	日本	1968年	
マルコヴァルドさんの四季	イターロ・カルヴィーノ	イタリア	1968年	
わたしとあそんで	エッツ	アメリカ	1968年	
極北の犬トヨン	ニコライ・カラーシニコフ	ロシア	1968年	
車のいろは空のいろ	あまんきみこ	日本	1968年	
二年間の休暇	ジュール・ベルヌ	フランス	1968年	
馬ぬすびと	平塚武二	日本	1968年	
イルカの夏	カテリーネ・アルフライ	ドイツ	1969年	
からすが池の魔女	E・G・スピア	アメリカ	1969年	
くまの子ウーフ	神沢利子	日本	1969年	
クローディアの秘密	カニグズバーグ	アメリカ	1969年	○
しずくの冒険	マリア・テルリコフスカ	ポーランド	1969年	
スイミー ちいさなかしこいさ かなのはなし	レオ・レオニ	オランダ	1969年	
すてきな三にんぐみ	トミー・アンゲラー	フランス	1969年	

アニメ映画『パンダコパンダ』論

ともしびをかかげて	ローズマリ・サトクリフ	イギリス	1969年	
ねないこだれだ	せなけいこ	日本	1969年	
ピーターのいす	エズラ・ジャック・キーツ	アメリカ	1969年	
ふしぎな500のぼうし	ドクター・スース	アメリカ	1969年	
ふたりのイーダ	松谷みよ子	日本	1969年	
ぼくがぼくであること	山中恒	日本	1969年	
ゆきのひ	キーツ	アメリカ	1969年	
りんごの木の上のおばあさん	ミラ・ローベ	オーストリア	1969年	
わたしのワンピース	にしきかやこ	日本	1969年	
星座を見つけよう	H・A・レイ	ドイツ	1969年	
魔神の海	前川康男	日本	1969年	
ブリジンガメンの魔法の宝石 オールダリーの物語	アラン・ガーナー	イギリス	1969年	

(出所) 表1に同じ。

表12 リンドグレーン 児童文学『長くつ下のピッピ』ストーリー紹介

両親のいない主人公の少女ピッピは、海辺のごたごた荘でサルの子ルソン氏や馬とくらすことになる。度胸も腕力もおしゃべりも並外れたピッピは、自分を施設に入れようとするおまわりさんや金貨をねらう泥棒をきりぎりまいさせる。ピッピが我慢できないのは、自分の好きな人、とくに子どもたちが悲しむこと。そのような状況に遭遇すると、何をおいてもその原因をとりぞかすにはいられない。

(出所) 内川朗子「長くつ下のピッピ」：佐藤宗子・久米依子編『現代日本子ども読書史図鑑』終風社、2023年、144ページおよびアストリッド・リンドグレーン作、菱木晃子訳『長くつ下のピッピ』岩波書店、2018年、195～198ページ、アストリッド・リンドグレーン作、石井登志子訳『決定版 長くつ下のピッピの本』徳間書店、2018年、374～380ページ。

(注) 文中の「ごたごた荘」という日本語訳は大塚勇三による（菱木晃子訳『長くつ下のピッピ』198ページ）。

三 中国児童文学・映画の影響と日中友好

(1) 中国文学、中国映画の影響

戦後日本の児童文学の中で、中国児童文学の影響が大きい。表3などにみられるように、1950年代から中国の伝統的な児童文学である『西遊記』、『三国志』、『水滸伝』、『聊斎志異』などに加え、『錦中の仙女』などで、中国の民話が紹介され、宮崎アニメに大きな影響を与えたと考えられる。特に宮崎駿は岩波少年文庫『西遊記』（上・中・下）に対し、「これはおもしろい!! 読まないと損をします。とにかく、自由奔放、縦横無尽、愉快で陽気で、壮大です。」と破格の評価を下している²¹⁾。1958年、日本の初の長編カラーアニメーションは中

国文学が原作の『白蛇伝』（東映動画）であり、1960年には『西遊記』（東映動画）が制作された。これらに影響を受けた高畑・宮崎・小田部・大塚らのアニメーターが東映動画に結集し、1968年、『太陽の王子 ホルスの大冒険』（東映動画）が制作された²²⁾。

日本初のカラー長編アニメ映画『白蛇伝』について、東映動画に入社が決まっていた高畑勲は、当時以下のように述べている。「ドキドキしながら映画館へ『白蛇伝』を見に行くと、なんとパンダが出演していたのです。なりは小さくポケットとしているが、いざとなると怪力を発揮、蘇州の動物愚連隊をユーモアたっぷりにやっつけてしまう。その場面はじつに楽しく、今なお見飽きません」²³⁾。

(2) 日中友好とパンダブーム

1971年10月、中国が国連代表権を獲得したのを契機に、1972年2月にニクソン大統領が訪中し、「上海コミュニケ」が発表された²⁴⁾。同年9月には田中角栄首相が訪中し、周恩来首相と日中国交正常化が実現した²⁵⁾。また72年10月28日、日中友好の証として、上野動物園に2頭のジャイアントパンダが中国から贈られ、「ランラン（蘭蘭）」、「カンカン（康康）」と命名され、パンダブームが巻き起こった²⁶⁾。

1972年のパンダブームの中で、前述した高畑・宮崎・小田部の『長くつ下のピッピ』の制作断念後のアニメ制作の企画書として作られていた「パンダの登場する企画」の制作が決

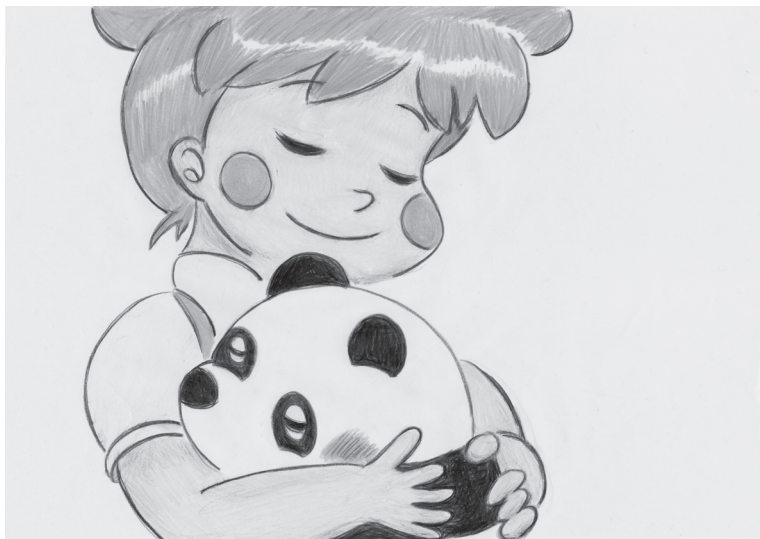


図1 『パンダコパンダ』イメージ画「パンちゃんとミミ子」
(出所) 藤森幸作成

定した²⁷⁾。同年12月17日、『パンダコパンダ』が公開され、翌年1973年3月17日には、第二作『パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻』が公開された²⁸⁾。高畑・宮崎らの作成していたパンダ映画の企画書が、72年のパンダブームの中で、アニメ映画史の中で、歴史的な作品『パンダコパンダ』となったのである。

おわりに

宮崎駿・高畑勲・小田部羊一・大塚康生による1972年アニメ映画『パンダコパンダ』は、スタジオジブリ作品を生み出す原動力となり、日本のアニメ制作の転換点となった。

本論においては、まず宮崎作品・高畑作品の土台となった1950～60年代の日本の児童文学作品をまとめ、次にスタジオジブリ作品のキャラクター形成に影響を与えたヨーロッパ児童文学を分析し、最後に、『パンダコパンダ』の制作に直接的な影響を与えた中国児童文学・中国アニメ映画および日中交流史について考察した。宮崎アニメの形成には、1950～60年代の多くの日本児童文学・ヨーロッパ児童文学・中国児童文学および中国映画の影響が息づいているといえよう。

注

- 1) 叶精二『『パンダコパンダ』制作の経緯―前史から現在まで―』：叶精二編『パンダコパンダ ファンブック』玄光社、2025年、108ページ等参照。
- 2)～4) 同上『パンダコパンダ ファンブック』98～101ページ参照。
- 5) 佐藤宗子・久米依子編『現代日本子ども読書史図鑑』柊風社、2023年、638ページ参照。
- 6) 百種委員会の委員は羽仁説子、林達夫、松方三郎、光吉夏弥、宮本忍、中井正一、中野好夫、中谷宇吉郎、清水幾太郎、吉田甲子太郎、吉野源三郎で、石井桃子が担当者として加わり、外国編60篇、日本篇40篇を選定した（岩菜晃子『岩波少年文庫のあゆみ』岩波書店、2021年、14～15ページ参照）。
- 7) 同名の映画作品『君たちはどう生きるか』2023年（監督・脚本：宮崎駿、制作：スタジオジブリ・星野康二・宮崎吾朗・中嶋清文）は、太平洋戦争末期の少年の物語。ジョン・コナリーのアイルランド児童文学『失われた者たち』を参考に行っているといわれる（宮崎駿『本へのとびら』岩波書店、2011年、65～80ページおよび<http://www.ghibii.jp/works/kitachi/> 等参照）。
- 8) 前掲『現代日本子ども読書史図鑑』78, 93, 115ページ等参照。
- 9)～10) 岩菜晃子『岩波少年文庫のあゆみ』岩波書店、2021年、53～59ページ等参照。
- 11) 前掲『パンダコパンダ ファンブック』99ページ、アストリッド・リンドグリーン作、菱木晃子訳『長くつ下のピッピ』岩波書店、2018年、195～198ページおよびアストリッド・リンドグリーン作、石井登志子訳『決定版 長くつ下のピッピの本』徳間書店、2018年、374～380ページ参照。

- 12) 前掲『パンダコパンダ ファンブック』108ページ参照
- 13) 前掲『パンダコパンダ ファンブック』109ページ参照。
- 14) 前掲『パンダコパンダ ファンブック』101ページ参照。
- 15) 叶精二『日本のアニメーションを築いた人々』若草書房、2004年、70～72ページ、津堅信之『日本アニメーションの力—85年の歴史を貫く2つの軸—』NTT出版、2004年、230ページおよび藤森猛「アニメ『アルプスの少女ハイジ』論」：愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第48号、2023年、57～65ページ参照。
- 16) 前掲『パンダコパンダ ファンブック』100～101ページ参照。
- 17) オトフリート・プロイスラー作、大塚勇三訳『小さい魔女』学習研究社、1965年、188～190ページ等参照。
- 18) 内川朗子「魔女の宅急便」：前掲『現代日本子ども読書史図鑑』445ページ参照。
- 19) 1950年代の『リボンの騎士』（手塚治虫原作）、60年代の『魔法使いサリー』（横山光輝原作）、『ひみつのアッコちゃん』（赤塚不二夫原作）に始まり、70年代には『キューティーハニー』・『魔女っ子メグちゃん』、80年代には『魔法少女ララベル』・『魔法のプリンセスミンキーモモ』、90年代には『美少女戦士セーラームーン』・『おジャ魔女どれみ』、2000年代には『ふたりはプリキュア』・『魔法少女リリカルなのは』、2010年代以降は『魔法使いプリキュア!』・『放課後のプレアデス』などコミック・テレビアニメ・劇場版アニメ映画における魔法少女アニメの人氣が続いている（『読売新聞』2026年1月1日、第2部、5ページ等参照）。
- 20) 藤森猛「アニメ「ひょうたん兄弟」論」：愛知大学語学教育研究室『言語と文化』第52号、2025年、57～68ページ参照。
- 21) 前掲『本へのとびら』42, 46, 79ページおよび前掲『現代日本子ども読書史図鑑』76ページ等参照。
- 22) 前掲『日本のアニメーションを築いた人々』201～293ページおよび前掲「アニメ『アルプスの少女ハイジ』論」59～61ページ参照。
- 23) 前掲『パンダコパンダ ファンブック』98ページ。
- 24)～28) 愛知大学現代中国学部『ハンドブック 現代中国 第四版』あるむ、2012年、70～71, 246～247ページおよび前掲『パンダコパンダ ファンブック』108～113ページ参照。